

平成31年3月

藤井政至 学位論文審査要旨

主査 兼子 幸一
副査 萩野 浩
同 磯本 一

主論文

Pain evaluation during colonoscopy by the erythema index of the facial image

(大腸内視鏡検査中の顔面画像の紅斑指数による苦痛の評価)

(著者：藤井政至、植木賢、上原一剛、八島一夫、河口剛一郎、池淵雄一郎、木下英人、
新井潤一郎、松原聡、後藤尚志、平山喬弘、橋詰英希、磯本一)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. 当院におけるS状結腸軸捻転症に対する内視鏡的治療成績と臨床的検討

(著者：藤井政至、八島一夫、河口剛一郎、磯本一)

平成31年 日本高齢消化器病学会誌 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、大腸内視鏡検査施行中の被検者の苦痛を、顔面色（紅斑指数）変化の光学的測定により客観的に評価するシステムの開発に関する報告である。原理は、紅斑指数の少なくとも一部が、脳活動変化に伴う脳血液量変化を反映するというものである。

本研究では、大腸内視鏡検査中の主観的苦痛度を把握力により経時的に測定、その結果と紅斑指数変化の関連性を検討している。その結果、主観的苦痛度と紅斑指数は直接的な傾向の一致を示さないが、紅斑指数の標準偏差、すなわちばらつきが増加することを示し、客観的苦痛度の評価に関する可能性を示した。その際、自律神経系の影響につき心拍変動を用いて検討し、自律神経系が紅斑指数の変化に一定の傾向をもって影響しないとした。以上の結果より、本論文は大腸内視鏡検査に伴う苦痛を評価する新たな技術を開発したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。